

コロンビアの最新動向(11月1日～11月15日)

I. 政治・経済

1. BANCOLDEXが国内向け債券を発行

- 11月14日、BANCOLDEX(コロンビア貿易銀行)は、1,695億ペソ(約8,000万ドル)の債券(期間5年)を発行した。
- 取引はダッチ・オークション方式で行われ、発行数の約2倍に上る3,597億ペソの需要があった。利回りはDTFレート¹プラス250bp。
- 今回調達した資金は、商業銀行を通じて、国内企業(非農業部門)への融資に利用される。
- 同銀行は、2007年から2010年にかけて、4年間で合計3兆ペソの債券を発行する計画。2007年は、今回が最後の発行となる。

II. 外交

1. クリントン米上院議員、FTA反対の立場を表明

- 11月8日、ヒラリー・クリントン米上院議員(民主党)は、労働・人権問題を理由に、コロンビアとのFTAを支持しない立場を表明した。同上院議員は、8日に米下院で可決された対ペルーFTA(賛成285反対132)については、支持する立場を示したが、パナマ、韓国とのFTAに関しては、反対する姿勢を明らかにしていた。
- クリントン上院議員は次期米大統領の有力候補(民主党)として、選挙戦をリードしているが、ラ米3カ国とのFTAについての立場を明らかにしたのはこれが初めて。
- ウリベ大統領はクリントン上院議員の発言に対し、許し難い誤解であるなどと非難する一方、コロンビアはこれまで以上に治安や人権問題の改善を示す努力をしなければならない、と述べた。
- 他方、11月4日、シュワブ米通商代表らの代表団がコロンビアを訪問、ウリベ大統領らと会談を行った。プラタ商観光相は11月中旬にもワシントンを訪れ、ATPDEA²の期間延長等、FTA批准に向けた戦略を話し合う予定。

¹ 金融機関のCDレートの加重平均から割り出したベンチマーク

² アンデス特惠関税麻薬取締協定。2008年2月に期限切れとなる

III. 石油その他の資源セクター

1. 独立系石油ガス会社 2 社が合併交渉へ、重質油開発に期待

- 11月13日、コロンビアで活動する Petro Rubiales Energy 社と Pacific Stratus Energy 社が合併交渉に入った。Pacific Stratus Energy 社は、本合併が実現すれば、Petro Rubiales Energy 社の完全子会社となる。合併後は、時価総額約 25 億加ドル(26 億米ドル)となる見込みで、コロンビアで生産を行う独立系企業としては最大規模となる。
- 両社は各々カナダに本社を持つエネルギー関連企業であるが³、操業はラ米のみで行っている。
- 今回の合併は、2008 年に予定されている、コロンビア南東部の重質油鉱区の公開入札に先駆けて行われた。新規 15 地区への入札は、招待者のみで行われ、メジャーも多数参加する見通し。
- Petro Rubiales社は、既に南東部ジャノ盆地の鉱区⁴で、重質油の生産を行っている(2.4 万b/d)。今後 3 年間で 11 億ドルを投資し、生産能力を 17 万b/dに拡大する計画⁵。同鉱区内に発電所の建設も予定している。
- 2 社の社長は、それぞれベネズエラ PDVSA に於いて重質油開発に携わっていた経験を持つ。

以上

³ 両社共にトロント証券取引所上場企業

⁴ 利権の 70%は Ecopetrol が所有

⁵ 現在 4 億ドルをかけてパイプライン(215km、20 万 b/d)を建設中

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。